

広島市下水道サポーター通信

創刊号

創刊にあたって

広島市下水道サポーター協議会

会長 国本 浩

広島市下水道サポーター協議会運営委員の会長を平成 19 年度もさせて頂くことになりました国本です。

協議会は、平成 18 年 9 月に設立し毎月 1 回の運営会議を開催し、現在会員登録者が約 60 名の人達があります。

この度、サポーター広報誌を創刊することとなりました。今後、皆様へ下水道の役割・機能など出来るだけの情報を伝えていきたいと思っています。

会員の皆様には、色々な専門分野の方々がおられますので、幅広い協議会の運営に御指導・協力よろしく申し上げます。

創刊によせて

広島市下水道局長 田中義則

この度の広島市下水道サポーター通信創刊おめでとうございます。平成 18 年 9 月に下水道サポーター協議会を設立されて約 1 年が経ち、この間、下水道サポーターの皆様には「下水道出前授業」「打ち水大作戦」「下水道ふれあいフェア」など広島市の下水道 PR 活動に多大なるご支援、ご協力を頂いており、感謝申し上げます。

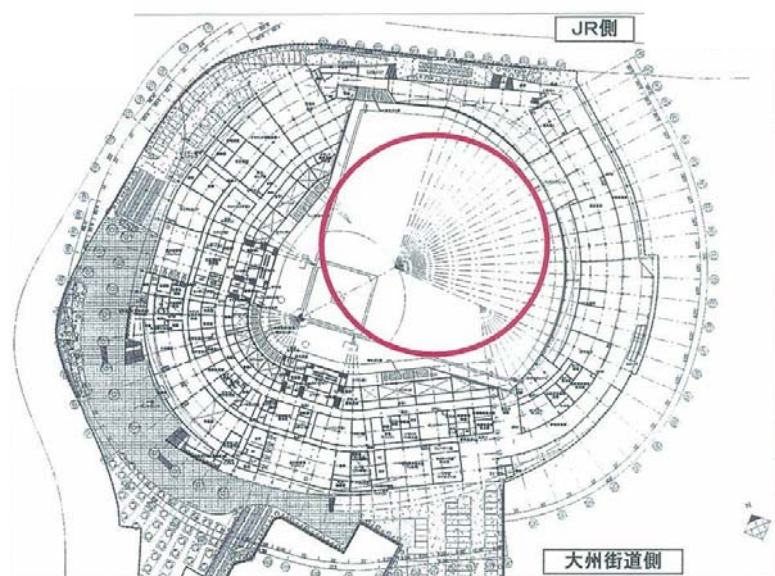
今回、広島市下水道サポーター通信が刊行されることにより、下水道サポーター協議会の活動に参加できなかったサポーターの仲間の方とも情報の共有ができるなど、今後の協議会活動の活性化や発展につながるものと大いに期待しています。

大州雨水貯留池築造工事視察

広島市下水道サポーター協議会は4月4日、新球場建設予定地のJR東貨物ヤード跡地で先行整備をしている雨水貯留池の現場視察を行いました。

築造建設の目的は、ヤード周辺地区の浸水被害を解消するとともに、貯めた雨水の一部は新球場グラウンドの散水や球場内のトイレなどに再利用されます。

新球場と雨水貯留池の位置関係図



凡例 ○は、雨水貯留池の位置を示す

雨水貯留池の規模

貯水量 15,000m³

(内、1,000m³は、新球場グラウンドへの散水やトイレの用水などに使用されます。)

直径 約100m

高さ 約4m

新球場グラウンド部地下約7mに設けます。

昨年12月に着工し、直径150m、深さ4.4mまで掘り下げ、見学当時は重機6台で、雨水貯留池が沈下・傾いたりしないように最深約22mの軟弱な粘土層にセメントを注入し、かき混ぜて地盤を固める粉体噴射工法（地盤改良工事）の施工をしていました。



講師による説明状況写真



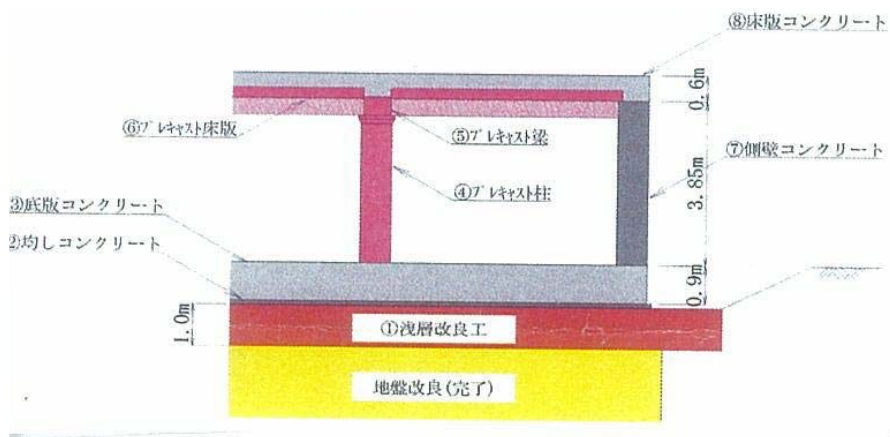
粉体噴射工法見学状況写真

6月からは、雨水貯留池築造の施工に入り、2009年春の新球場オープンに合わせて、球場本体工事にかかります。

会員の皆様は、グラウンドにすっぽりの穴の出現でビックリされた様子で、質疑では、施工と環境・住民とのトラブル問題、掘削土の処理など幅広い質問が多くだされて、有意義な時間を過ごしました。



雨水貯留池築造施工状況写真



雨水貯留池築造断面図